

## 平成29年度 中部森林技術交流発表会 応募発表課題一覧表

発表部門	番号	課題名	所属	発表概要	備考
森林技術	1	付属路の開設による効率的な生産事業への取組	北信森林管理署	平成29年度伐採・造林一貫作業箇所において、付属路開設による安全かつ効率的な生産事業実行への取組みを行ったので、その結果を報告する。	
	2	自然環境に配慮したコンテナ苗による治山緑化工	中信森林管理署	治山工事に必要不可欠な緑化工において種子等の持ち込みが規制された区域があることから現地産の挿し木による試験的な緑化の途中経過を報告する。	
	3	金沢山ヒノキ林分における漸伐作業の取組	南信森林管理署 信州大学農学部	信州大学農学部と連携し取組を行っている天然更新による森林づくりについて、これまでに行った漸伐作業による林分構造の推移等について検証し、今後の展望や森林施業法について考察する。	
	4	木曽ヒノキ天然更新補助にかかる取組 ～ササの処理からみえてきたもの～	木曽森林管理署 森林総合研究所 木曽ふれセン	木曽ヒノキ天然更新について、ササ処理方法や稚樹の発生状況等を三浦国有林において調査し、結果から更新補助作業について検討した。	
	5	多様な森林への誘導に向けたモデル林における取組	南木曽支署	多様な森林づくりに向けたモデル林において、主伐前に伐倒・搬出方法等の検討、主伐実行後に更新・保育等施業方法の検討を行ったので、その取組経過を報告する。	
	6	自然侵入促進工による林地復旧の取組	伊那谷総合治山事業所 株式会社 愛紘	平成27年に環境省より自然公園における法面緑化指針の策定された基本理念に基づき、植生基材吹付工による自然侵入促進工の新たな取組内容について報告する。	
	7	国有林における無人航空機の計測的活用	飛騨森林管理署	無人航空機(ドローン)による空撮画像からオルソ画像及び3Dモデルを作成し、単木の地理座標指定、樹冠占有面積測定及び樹高測定への活用可能性を検証した。	
	8	ドローンを活用するために～岐阜森林管理署の取組～	岐阜森林管理署	岐阜森林管理署で新たに導入されたドローンの業務への活用と課題及び、今後の利用拡大に向けた体制の構築等の取組について報告する。	
	9	高標高地、遠隔地における森林整備等の課題整理	富山森林管理署	高標高地における国有林の現状把握、管理等は、山小屋関係者の努力に負うところが多い。今般実施した協働活動における山小屋関係者らの発言を踏まえ、森林整備事業を高標高地や遠隔地で実施する場合の問題点を整理し、今後、火山噴火やシカの食害等に伴い、早期に植生回復を行う必要性がある場合の参考資料とする。	
	10	列状間伐がヒノキの成長に与える影響について～樹幹解析による成長量の評価～	森林技術・支援センター	ヒノキ林の列状間伐実施後10年が経過した箇所において、列幅の異なる間伐がヒノキの成長に与えた影響を樹幹解析等により考察し間伐の効果を検証した。	
	11	ササの一斉開花に伴う森林への影響について	愛知森林管理事務所 森林総合研究所	平成28年度に段戸国有林においてササ(スズタケ)の一斉開花が確認された。過去のササの一斉開花に伴う甚大な野鼠被害記録等を踏まえた森林への影響調査について報告する。	
森林保全	12	岐阜署のニホンジカ対策～職員の意識向上と職員捕獲の取組～	岐阜森林管理署	平成28年度から新たな獣害対策への取組として、地域と連携した効率的な捕獲を目指し、職員による目撃情報の集約やセンサーカメラを活用した職員捕獲の実施について概要を報告する。	

森林 ふれあい	13	裏木曾登録ガイド制度の取組について	東濃森林管理署	地元の関係者と連携して、裏木曾登録ガイドによる木曾ヒノキ備林案内を試行的に実施しており、これまでの経過及び本格的な実施に向けての取組を紹介する。	
	14	100年先の森林づくり発表会の開催 ～国・県・市が連携した地域での取組～	岐阜森林管理署	地域主体かつ国、県、市の共催で「100年先の森林づくり発表会」を開催した。国民に森林・林業を普及啓発するために、参加者アンケートの結果と併せて内容を報告する。	
	15	王滝村における森林・林業体験交流促進対策事業の取組について	木曾森林管理署	森林環境教育を促進するため、王滝村にある豊かな自然環境を利用した体験活動が出来るように整備を行い、地域振興に資するための取組を報告する。	
	16	長野県軽井沢町における藪刈り作業	東信森林管理署 軽井沢西地区固有林藪刈り実行委員会	住宅地に隣接する国有林野内で、ツキノワグマによる被害を防ぐとともに、その保護を図るため、地域住民等により進めている緩衝地帯作りについて、その手法、取組経過等を報告する。	
	17	城山における生物モニタリング	長野県林業大学校	林大近くの城山は、本校及び木曾青峰高校の演習林として活用されている他、登山道として観光的な活用もされている。城山演習林全体で生物モニタリング調査を実施し、人的影響や環境の違いが動物に与える影響を考察するとともに、その生態的データを観光マップとして活用する試みの中間報告を行う。	
森林技術	18	チェーンソー伐倒作業を中心に置いた技術マニュアル～海外とのルール比較～	長野県林業大学校	国内・海外の林業技術手法等を学生自ら試行し、動作過程を写真と図・DVDで理解する技術マニュアルを1・2学年連携・分担して制作している。本チームでは、日本(林災防)とスウェーデン(ハスクバーナ)の技術・安全教育についての比較と実証を行いマニュアル制作に向けた検討状況の報告を行う。	
森林保全	19	北アルプス雲ノ平における10カ年実施した官民協働による植生復元活動について	雲ノ平山荘 東京農業大学 富山森林管理署	平成18年度から実施している、行政・山小屋・大学の三者による協力体制の元での雲ノ平植生復元活動が本年度で通算10年目を迎えたことから、これまでの取組の経過及び課題などについて検証、報告する。	
	20	岐阜県東白川村国有林のヒノキ人工林における水源涵養機能改善に向けた調査研究	サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社 筑波大学	森林の公益的機能の一つである水源涵養機能向上に向け、岐阜県東白川村国有林内で強間伐施業を実施し、その効果を検証する調査研究を行ったので、その結果を報告する。	
	21	シカ食害地の防除方法の比較検討について	森林整備センター 長野水源林整備事務所	ニホンジカやカモシカの食害に対する防除方法のうち、忌避剤と単木処理を行った場合の防除効果等の比較結果の報告を行う。	
	22	「南信州鳥獣害対策アカデミー」による地域全体の情報共有とスキルアップセミナー	長野県南信州地域振興局林務課	野生鳥獣による県下最大の農林業被害が発生している地域での、農林業関係者、猟友会、行政が連携して取り組むスキルアップセミナーの企画とその実行に関する事例報告を行う。	
	23	原点回帰：屋根型道に学ぶ丈夫で安価な道づくり	岐阜県飛騨農林事務所 たかやま林業・建設業協同組合	たかやま林業・建設業協同組合が、平成23年に施工した中央欧州で行われている丈夫で安価な道「屋根型道」について、施工後6年が経過しその有効性が検証されたので、道づくりの考え方と技術についての報告を行う。	
	24	根鉢の低いヒノキ・コンテナ苗の育苗と植栽初期の成長	岐阜県森林研究所 森林技術・支援センター	林地でより早く植えられるコンテナ苗の根鉢形状を検討するため、根鉢高さの異なるヒノキ実生コンテナ苗を育苗し、植栽効率、植栽初期の成長量を調査した。	

森林技術	25	1.5年生ヒノキ・コンテナ苗の育成条件の検討	岐阜県 森林研究所 ..... 森林技術 ・支援センター	ヒノキ・コンテナ苗のコストを削減するため、播種時期を通常の春から9月へ遅らせて2年後の春に山出しできる1.5年生苗の育成条件を検討した。	
	26	森林路網がスギ人工林内の植物種多様性に及ぼす影響	信州大学大学院 総合理工学研究 科	人工林の森林路網には植物種多様性を高める効果があり、この効果は林齢や開設経過年によって異なった。森林路網の影響を考慮した新しい多様性管理の手法が提案される。	
	27	ヒノキ漸伐林における終伐後の林分状況と造林費の推定—金沢山国有林を事例として—	信州大学農学部 森林科学科 ..... 南信森林管理署	終伐後、更新木の損傷状況を調査した。結果、更新木の3割以上に損傷が発生していた。また、保残した更新木と枝条の分布から造林面積を算出。造林作業を推定し、コストを求めた。	
	28	ヒノキ人工林における枝と死節の分布特性	岐阜大学 自然科 学技術研究科	管理放棄されたヒノキ人工林の立木を供試木として直接計測と樹幹解析により枯枝を含めた全枝と死節の空間分布を調査した。枝と死節の分布の特性を明らかにし、その推定モデルを作成した。	
	29	県産材でつくる画用木炭	岐阜県立森林文 化アカデミー	身近な樹木の画用木炭としての利用を検討した。9樹種と市販品(ヤナギ)について、使用感を調査した。その結果、アラカシ、クリ、エゴノキが描きやすさ、発色に優れていた。	
	30	赤外線センサーカメラを使用した演習林内の動物の生態調査 演習林内でのモノレール活用と、林道との交差の施工方法について	長野県木曾青峰 高等学校	本校演習林において、生息する野生動物の生態調査及びその経年変化についての報告並びに同森林地域の急峻な作業現場への人員輸送や木材運搬を目的とした林業用モノレールの設置作業等の実践報告する。	
森林 ふれあい	31	飛驒の森林から魅力発信！ ～知る・学ぶ・伝える～	岐阜県立飛驒高 山高等学校	地域企業と高校生がタイアップし、飛驒の森林から魅力を発信する。「知る」「学ぶ」「伝える」の3つを柱に活動を行ってきた実践を報告する。	
	32	教えて学ぶ森林活用 ～一膳の箸を通した森林の 役割や大切さの啓発～	長野県下高井農 林高等学校	森林への意識を持ってもらうことが森林の活用・保全につながると考え、未利用材を用いた箸づくり体験指導を行い自分たちも成長できた学習成果報告。幅広い年齢層への森林・林業の役割や大切さ啓発の取組を通じ自分たちも森林への理解を深めた。	

※“斜体文字”の課題については、民有林および学生の発表課題